

宮前区のミライを考える さぎぬまプロジェクト

第1回意見交換会（ワークショップ）での質問＋考え方

第1回意見交換会でフセンにお書きいただいた御意見のうち、「質問」として整理できるものに対して、現時点での市としての考え方をお示します。

Q1. まずは、区役所等を移転する場合としない場合の必要経費の比較が必要ではないか。

- ・ 現在、区役所等の建物の劣化状況の確認、長寿命化整備の方針検討と課題の整理、現在の建物を継続利用した場合と移転した場合の必要概算経費の算出などについて、専門業者への委託により基礎調査を実施しています。
- ・ 第1回まちづくりフォーラムでの御意見等を踏まえて8月26日(日)に追加開催する「中間報告まちづくりフォーラム」で、コスト面も含めた基礎調査の作業状況の報告を予定しています。

Q2. 区役所機能移転と再開発の検討は分けて考えてはどうか。

- ・ 今回の取組は、民間事業者による鷺沼駅前再開発によりバスターミナルが広がるなど、交通結節点としての機能の向上が見込まれることなどから、この機会を捉えて、鷺沼駅前に望まれる公共機能は何か、ということを検討するものです。
- ・ 再開発がなければ、現時点で区役所・市民館・図書館等の移転について検討することはありません。

Q3. ワークショップに女性の方が落選している。女性の参加者が少ないのではないか。

- ・ 応募者全109名のうち女性は30名(27.5%)でした。
- ・ ここから、地域や年代に加えて男女バランス(当初比よりも女性の割合を増やすこと)を考慮して抽選を行い、女性の参加者は18名(36%)となりました(辞退者が1名いらっしゃいましたので、女性の落選者は11名でした。)

Q4. いつ、だれが、どのような形で検討を進め、決定していくのか。

(意見交換会での意見がどのように反映されるのか)

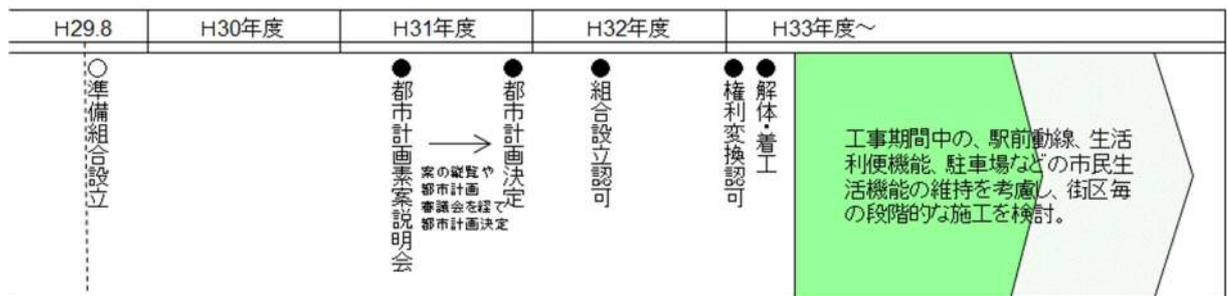
- ・ 意見交換会(ワークショップ)では、50名の参加者に4回連続した内容で理解や意見を深めていただき、創造的な議論ができるように運営してまいります。
- ・ まちづくりフォーラムでは、意見交換会に参加できなかった方々を含め、幅広い参加者の方々に取組内容をご説明するとともに、ご意見を伺ってまいります。
- ・ さらに、無作為抽出の区民アンケートによる統計的な意識調査や、区役所の日常業務等に関わりのある団体等を対象とした説明・ヒアリングなど、多角的な意見聴取を実施しながら検討を進めていきます。

- また、行政内部では、副市長を座長とする「鷺沼駅周辺再編整備公共機能検討会議」及びその下部組織である幹事会や部会を設置しています。現在は、まちづくりフォーラムや意見交換会の運営に関することなどについて検討・調整しています。
- 区民の皆様からいただいた御意見は、これまでも検討の進め方や論点などに反映しています。
- 今後につきましても、意見交換会をはじめとした様々な場面でいただいた御意見を、個々の結果だけでなく、総合的に整理、検討し、平成31年2月に公表を予定している「基本方針(案)」に反映していきます。
- なお、再開発準備組合では、平成31年度の都市計画決定手続きを経て、平成33年度から街区ごとに段階的な施工が検討されています。川崎市が行う都市計画決定手続きの中では、都市計画素案説明会や縦覧など、都市計画の内容について、市民意見を伺う場があります。

■宮前区のミライを考える さぎぬまプロジェクト スケジュール



■鷺沼駅前地区再開発事業 スケジュール



※ 現時点の想定スケジュールであり、今後変更する可能性があります。

Q 5. このプロジェクトの市の主管はどここの部局になるのか。

- ・ 関係 4 局区で連携しながら取組を進めています。
 - 市民文化局…意見交換会やフォーラム、区役所機能に関する事など
 - 宮前区役所…区民アンケート、関係団体等説明・ヒアリング、区役所機能に関する事など
 - 教育委員会事務局…市民館・図書館機能に関する事など
 - まちづくり局…再開発事業全般、交通環境に関する事など

Q 6. 区役所等を移転する理由を説明してほしい。

- ・ 今回の取組において、今すぐ区役所・市民館・図書館を移転しなければならない、という理由はありません。
- ・ 現在の区役所・市民館・図書館は、供用開始から 30 年以上が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいるものの、今すぐに建替えを必要とする状況ではありませんし、将来的に施設更新を行う場合、様々な課題はあるものの、現地での建て替えが不可能なものでもありません。
- ・ 一方、今回の民間事業者による再開発は、中長期的な宮前区のまちづくりという観点から、とても大きな事業です。
- ・ 今回の取組は、この民間事業者による再開発を契機として、鷺沼駅前にどのような公共機能が望まれるかということについて検討するものです。

Q 7. 今の場所に区役所等を整備した理由を知りたい。

- ・ 昭和 57(1982)年に高津区から宮前区を分区する際、区役所等の庁舎については、土地の有効利用や機能の向上といった観点から、総合庁舎として区役所と市民館、図書館等は同一地に設置することが計画されました。
- ・ 総合庁舎を建設するには、1 万平方メートル程度の土地が必要とされ、当時の幹線道路や地下鉄計画をはじめとした交通体系の整備構想も合わせて考慮した結果、現在地の土地を取得した経過があります。

Q 8. 鷺沼の未来の検討と並行して跡地のあり方も検討する必要があるのではないか。

- ・ 仮に「区役所等を移転する」とした場合の課題にはなりますが、第 1 回まちづくりフォーラム等でも同様のご質問やご意見をいただいておりますので、現在の区役所等用地(跡地)のあり方についても、鷺沼駅前再開発に望まれる公共機能の検討と並行して、意見交換してまいります。

Q9. 区役所にどういふ用事で来る人が一番多いのか

- ・ 区役所の窓口ごとの来庁者数を集計したデータはなく、手続き等の処理件数からの推定になりますが、区役所には、転入・転出等の手続きや証明書の発行件数が最も多くなっており、次いで国民健康保険・国民年金等に関する手続きが多くなっています。
- ・ また、児童、障害者、高齢者、生活保護等の福祉に関する手続きや相談も多く、これらの手続きの中には、年に複数回の来庁が必要な方もいらっしゃいます。

Q10. 宮前区の分区は将来もないのか。

- ・ 川崎市では、昭和 57(1982)年に高津区から宮前区が、多摩区から麻生区がそれぞれ分区し、7 区制となりました。これは、昭和 47(1972)年の政令指定都市移行時から、高津区・多摩区の都市化の進展に伴う将来的な人口増加が見込まれたことによるもので、当時の推計では、両区とも 35 万人を超えることが想定されていました。
- ・ 平成 29(2017)年に実施した本市の将来人口推計では、宮前区の人口は平成 47(2035)年の 23.8 万人をピークとして減少に転じる見込みです。
- ・ 人口規模を1つの目安として考慮すると、宮前区の将来的な分区は想定できません。

Q11. コミュニティバスはなぜできないのか。

- ・ 川崎市では、「身近な地域の交通」の基本は、路線バスとして位置づけています。地域の交通課題を検討する際、まずは路線バスが活用できないかを検討することとなります。
- ・ コミュニティ交通は、路線バスの活用が難しい場合、地域のみなさんが主体となって導入する交通手段になります。
- ・ 川崎市内でも、地域住民の主体的な取組により、麻生区高石地区の「山ゆり号」や多摩区長尾台地区の「あじさい号」などコミュニティ交通の本格運行が行われています。
- ・ 川崎市として、地域の主体的な運営によるコミュニティ交通の導入に向けた取組に対して、住民が活動しやすい環境づくり、安全運行のための情報提供、技術的支援の提供、交通事業者との調整など、取組等の進捗状況に応じた支援を行い、持続可能な交通環境の整備を推進しています。